

# 届け 世界の果てまでも

令和2年11月25日

No. 49

文責 校長 飯久保一男

## 子どもの前で人の悪口はNGです



今日、11月25日は「先生ありがとうございますの日」だそうです。「1」（先生）と「1」（親・子ども）が向かい合って、先生に感謝を伝え、お互いが「25」（ニッコリ）する日という意味とのことです。

教職員の仕事は、子どもに喜んでもらえると思われたい。ある意味、子どもたちの喜ぶ顔を見たいがために、過労死ラインなどと言われつつも、夜遅くまで準備をしているともいえます。さらに、保護者の皆さんから、喜びの声が届くと疲れさえも吹っ飛びます。

子どもに「先生に出会えてよかった」とか「先生に教わったおかげで成長できた」などと言ってもらえたら、多くの教員は涙が出ると思います。

ちょっと長くなります。ある担任の話です。5・6年と担任した子の母親から、その担任にたびたび苦情の電話が来ていました。その担任は、その子を5年生で受け持った当初、放課後に残して、掃除中・授業中の態度を叱りました。その子は落ち込んだまま家に帰りました。家で泣きながらこのことを母親に報告したようです。そのあと、母親から「叱ったあとにフォローもしないで叱りっぱなしで帰すなんてとんでもない」という内容の苦情がありました。母親の言うことは正論です。叱りっぱなしで帰した担任の指導は正しいとはいえません。ただ、叱られた内容について正しく理解してくれていたかどうかは疑問です。その担任が叱った内容は、掃除中にその子が他の子の文句ばかり言っていて、自分は何もやらず、逆に、掃除をやっていないことを他の子から注意されたら落ち込んで、掃除は全くせずに、さらに午後の授業を泣いたままやらなかったという態度でした。

その母親は、このことがずっと心に残ってしまったようでした。担任のすること為すことが気に入らないようで、何かと批判し、苦情を言ってきました。担任はその保護者から電話があるたびに、また何か文句があるのかと嫌な気持ちになったとのことでした。「それにはこういう目的があって…」と説明しても「先生はいつも言い訳ばかり」と聞く耳をもってくれないと嘆いていました。本来は、こんな感情になってはいけなないのですが、担任も人間ですので、よかれと思ってやっていることを端から批判されると、やる気がなくなり、余計な取り組みなどはしないで、授業だけしていればいいのかと、捨て鉢な気分にもなったといえます。



その子の態度は、その後もあまり変わらず、人には文句を言うくせに、自分が言われると落ち込むことを繰り返していました。そんな態度を指導しないわけにはいきませんので、担任は粘り強く指導していきました。やがて、子どもには担任の指導が伝わり、様々な取り組みに前向きになり、仲間を大切にする姿勢が見えてくるようになっていました。

6年の3学期になって、その母親が話があると学校にやってきました。卒業間際になって、電話ではなく、いよいよ直接文句を言いに来たかと思ってしまいましたが、違いました。その母親が家で担任の文句を言い出したとき、その子が母親を制して、「お母さんは間違っている。〇〇先生ほどいい先生は他にはいないよ。」と言ったとのことでした。母親は、それまでの担任への態度を詫言にきたのでした。子どもの成長を喜び、担任の指導に感謝をして行きました。担任は、それまで積もり積もっていた嫌な気持ちが、きれいさっぱりなくなったと話してくれました。

粘り強い指導で子どもを成長させ、母親の考え方を変えた担任は素晴らしい教員だと思いますが、私は、子どもの変化と成長を認めて、素直に担任に感謝する気持ちに切り替えた母親も素晴らしいと思いました。

この子が担任に叱られた態度、その後もなかなか改善できなかった態度の原因は、想像がつくと思います。母親が他の人などへの文句を子どもの前で言っている姿が影響していると思われる。家庭で、子どもの前で、親が担任の文句を言っていたら、その子には担任の指導はなかなか入っていきません。

子どもの成長に一番大きな影響を与えるのは親です。親のものの見方や考え方を見聞きして、親の態度を見て、子どもは成長します。その親が子どもの前で見せる態度を子どもは悪いことと思わずに自分もそうします。子どもの前で、人の悪口を言ったり文句を言ったりすることはNGです。特に子どもの自我が芽生える小学生段階では、厳禁です。高学年になり、子どもが精神的に自立してくると、逆に、親のそういう態度を批判的に見るようになり、親に嫌悪感をもつことにもつながります。

人間は、その防衛本能からか、他人の悪いところを見ようとする性質をもっているとのことです。幼い子どもほど「〇〇ちゃんに△△された」と他の子の嫌なことを大人に訴えてくるのはその表れのように思います。自己肯定感の低い子は、他人どころか、自分までを否定的に見ようとします。子どもたちが自己肯定感を高め、プラスの感情で他の人を見られるようになると、明るく楽しく生活できると思います。

自立した人なら、他の人に対してマイナスの感情をもったとしても、それを抑えることができます。子どもが他の子どもにマイナスな感情をもって話をしてきたら、その子のいいところを見てもっとうまく付き合えるのではないかと話してやることもできるはずです。

さて…、子どもが、担任に対して批判めいたことを親に言ってきました。どうしますか？



※担任への相談や連絡は、遠慮なさらずにお願いします。  
気になることは「こんなことで…」と思わず、ご相談ください。



1学期に、仮面ライダーのマスク姿、仮面ライダーが手を洗う姿、本を読む姿などのイラストをこの紙面で紹介してもらいました。そのときに、県の養護教員研究会の会誌のイラストを依頼されているとも書きました。いろいろ悩んだ末、家庭の洗面所に関わった様子に想像を巡らせ（大した想像が浮かばないノーミソですが…）こんなイラストをかいて編集担当に渡しました。会誌が出来上がっても、養護教員以外は目にするのではないと思いますが…。

